



## チョウトンボ (*Rhyothemis fuliginosa*)

トンボ科

6月から9月にかけて、香寺町の水草が沢山生えているため池で見ることができます。チョウのようにひらひらと飛びます。

写真はオスのチョウトンボです。メスは、後翅の先が透明で、光の状態によっては翅が黄色に見えることもあります。

写真は、土師地区の中の池で撮影しました。



## オオアメンボ (*Aquarius elongatus*)

アメンボ科

飴のようなにおいがすることから、アメンボと呼ばれるようになったと考えられています。

中脚と後脚が非常に長く、中脚の長さは6cmあります。脚先に密生する短い毛が水をはじく力を利用して水に浮かびます。水面をスイスイと移動し、池に落下した小さな虫を見つけて体液を吸い取ります。

写真は、行重地区の奥羽部池で撮影しました。



## トノサマガエル

(*Pelophylax nigromaculatus*) アカガエル科

9cmくらいに成長する大きいカエルです。春に産まれたオタマジャクシは秋にカエルになって上陸します。ため池や水田で親しまれてきたカエルですが、早く水が抜かれたり、コンクリートの深い溝などで上陸できない水田では生息できなくなりました。今では、準絶滅危惧種に指定されています。

写真は、相坂地区のトツの池で撮影しました。



## ヒルガオ (*Calystegia japonica*)

ヒルガオ科

初夏から夏にかけてアサガオに似た桃色の花を咲かせます。花の長さは10cmほどで、昼になってもしぼみません。

北海道から九州まで分布し。日当たりの良い野原や道端などに生えます。一度増えると駆除が難しいため雑草として扱われてきましたが、今では、ため池の堤防が数少ない自生地となりました。

写真は、土師地区の中の池で撮影しました。



## カナビキソウ (*Thesium chinense*)

ビャクダン科

吸根と呼ばれる特殊な構造で、他の植物の根から水分や養分を吸収する半寄生植物です。煎じた汁がおできや腫れ物の民間薬として利用され、朝鮮では「土夏枯草」という名の利尿剤として用いられます。

除草作業がおこなわれて、よく日が当たるため池の堤防で、他の植物に埋もれるようにして生えていました。移植は不可能とされる植物です。

写真は、土師地区の新池で撮影しました。